

①研究者紹介

東京医療保健大学 医療保健学部看護学科
岡田 弘美

小児専門病院で勤務した後、大学院に進学しました。博士前期課程より小児がんのお子さんをもつ母親の就労をテーマに研究に取り組んでいます。今回、ご紹介する論文は、博士後期課程で取り組んだ研究のデータの一部をまとめ、博士論文の基礎論文「小児がん経験者の母親の就労状況に関連する要因：横断的研究」として発表した論文です。



② 国際誌投稿へのTips

国際誌への投稿は、本論文が3本目でした。これまでの2本は看護系の国際誌に受理されました。本論文は、研究テーマから看護師だけでなく、小児がんのお子様とご家族を支援する他の専門職にも読んでいただきたいと考えました。そこで、がん医療に携わる様々な職種が読者として想定される雑誌への投稿に挑戦しました。

しかし、残念ながら、受理されるまでに投稿した他2誌では査読にも進めずに、敢えなく撃沈しました。国際誌に投稿するモチベーションの維持、そして、他の雑誌への投稿に向けて論文の形式修正が大変でした。予め、投稿先の候補を複数（できれば3～4つ）挙げ、投稿順を考えておくとも良いかもしれません。



③論文概要（表紙）

Title:

Factors associated with employment status among mothers of survivors of childhood cancer: a cross-sectional study

小児がん経験者の母親の就労状況に関連する要因：横断的研究

Author:

Hiromi Okada, Wataru Irie, Akiko Sugahara, Yuko Nagoya, Masayo Saito, Yoji Sasahara, Yasuko Yoshimoto, Fuminori Iwasaki, Masami Inoue, Maho Sato, Miwa Ozawa, Shigenori Kusuki, Junji Kamizono, Yasushi Ishida, Ryoko Suzuki, Ryoko Nakajima-Yamaguchi, Hitoshi Shiwaku.

岡田弘美、入江亘、菅原明子、名古屋祐子、齋藤雅世、笹原洋二、吉本康子、岩崎史記、井上雅美、佐藤真穂、小澤美和、楠木重範、神園淳司、石田也寸志、鈴木涼子、山口玲子、塩飽仁

Journal:

Supportive Care in Cancer 2023; 31:168



④研究の概要

目的：小児がん経験者（CCS）の母親の就労状況に関連する要因を明らかにすること

方法：

- 1) 対象者：小児がんの治療及び経過観察をおこなっている11施設の外来を受診した小児がん経験者の母親
- 2) 調査方法：質問紙調査
- 3) 調査内容：母親の就労状況、小児がん経験者の外来通院の頻度と母親の付き添いの有無、小児がん経験者の医療的ケアの有無就労、就労意欲、子どもの慢性疾患に対する親の適応度 Parent Experience of Child Illness（PECI）、母親が認識するサポート、小児がん経験者を対象とした経済的支援の有無
- 4) 分析方法：就労している母親群と就労していない母親群の2群に分け、各質問項目に対しMann-WhitneyのU検定、 χ^2 検定、Fisherの正確確率検定を実施し比較した。母親の現在の就労の有無に対する関連因子を検討するため、二項ロジスティック回帰分析を行った。



④研究の概要

結果：

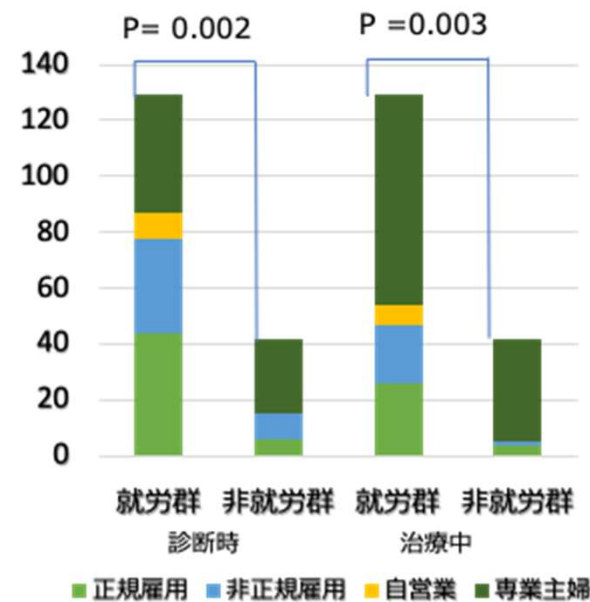
母親 171 名のうち、129 名 (75.4%) が雇用されていた。調査時に最も多い雇用形態はパートタイム、派遣を含む非正規雇用 (n= 83、48.5%) であった。

診断時の就労状況別就労の変化

n=171

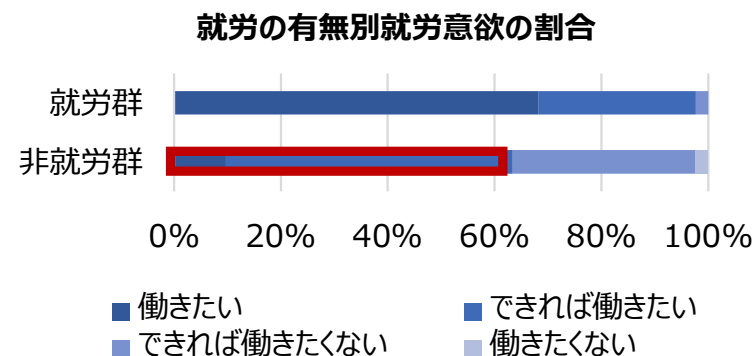
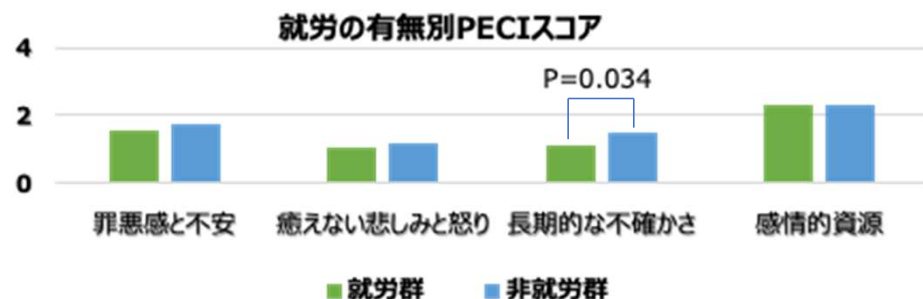
	正規雇用 n=50 n(%)	非正規雇用 n=43 n(%)	自営業 n=9 n(%)	専業主婦 n=69 n(%)
休職した	20(40.0)	8(18.6)	4(44.5)	0(0.0)
退職した	18(36.0)	25(58.1)	2(22.2)	0(0.0)
時間や働き方を変えて同じ仕事を続けた	9(18.0)	5(11.6)	2(22.2)	0(0.0)
就労状況の変化はなかった	3(6.0)	5(11.6)	1(11.1)	68(98.6)
働き始めた	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.4)

調査時の就労の有無別診断時、治療中の就労状況



④研究の概要

結果：



小児がん経験者の母親の就労の有無への関連要因に関する二項ロジスティック回帰分析

項目	偏回帰係数	有意確率	オッズ比	95%信頼区間	
				下限	上限
就労意欲	2.305	<0.001	10.023	4.167	24.105
治療中の就労の有無	1.748	0.007	5.475	1.606	20.553
通院頻度	1.020	0.002	2.774	1.472	5.227
サポート数	0.473	0.002	1.605	1.195	2.155

モデルχ²検定：p<0.001, 判別的中率：84.8%, Hosmer-Lemeshowの検定：有意確率 0.538

考察：

CCSの母親の雇用は、働く意欲や長期的な不安などの心理的要因と関連しているため、CCSの母親に対する心理的サポートは雇用を促進する可能性がある。また、治療中の雇用継続はがん治療終了後の母親の雇用に影響を及ぼすため、小児がんの治療期間をカバーする休暇制度の創設も必要である。

